

約7分でアイヌの世界が分かる！

プラザを出て一番左のコーナーが「わたしたちの世界」。ここで上映しているアニメは大人気。アイヌのカメラ観などが平易に説明され、子どもたちも結構食い入るように見ているようです。



毒矢は本物？

テーマ「私たちのしごと」のコーナーにある毒矢。開拓使によるお触れの一つ。生活を成り立たせていた狩猟の毒矢使用を禁止しま

した。その「対」には、反対の嘆願書を展示し、アイヌ民族の意志を伝えていきます。矢の先の毒はよく見ると今でもかたまりのようなものが付着していて、「本物です」ということ。怖！調合道具も展示しています。

その毛は繊細で、どちらにもなびくことから、「八方美人」的な人を「ラッコの毛皮のようなヤツ」というアイヌ語の表現も文献に残っています。

ちよつとお茶目なラッコの毛皮

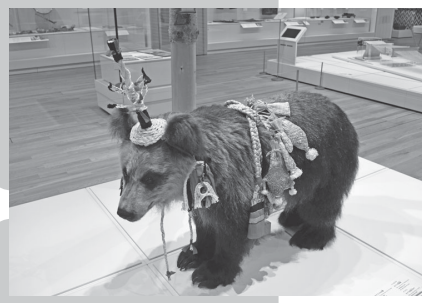
本州や中国への交易品として珍重がられたラッコの毛皮。



製作が伝承を生む

テーマにこだわらず、旭川や阿寒、平取など道内各地のアイヌ民族の方にここでの展示のための製作を依頼しています。そうすると現地では写真や文献、聞き取りなど新たな動きを通し技術の復興、伝承が進められています。ウポポイはそういう役割もあります。作ってもらった「イナウ」もそうですが、平取の方が制作した着物のサンブルミニチュアも逸品。それにウポポイは、伝えられてきた資料を展

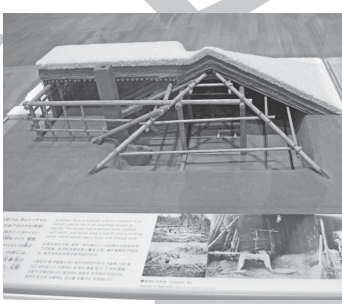
示すだけでなく、手作りした資料も多いのが特徴。先日、NHKテレビで紹介されたイヨマンテの熊の装飾は、復元製作した若者のドラマがありました。中央で一段と目を引くジオラマは田村さんの企画。樺太、平取の風景を表現しています。



アニメ「ゴールデンカムイ」の影響



樺太、千島のアイヌが冬の寒さをしのぐために堅穴で作った住居の精巧な模型も手作り。労作です。アニメ「ゴールデンカムイ」にも登場するらしく、来場者は興味津々らしいです。



いまだ大いなる誤解：

テーマ「しごと」では、狩猟、漁労、採集の様子を紹介しているが、本州からの来場者には「今でも山で狩猟しているんですか」「山に帰って寝るんですか」と質問する人もいるという…。アイヌ民族の人が就いている仕事紹介のバ

田村室長

興部町生まれの44歳。第1印象は笑顔で気さくなAAAです。千葉大学大学院でアイヌ語・文化・歴史を学び、専門は樺太アイヌの近現代史。北海道開拓記念館学芸員、札幌大学特命准教授、東京国立博物館主任研究員を経、今年4月から同職。長時間となった単独取材に丁寧につきあっていたが、ありがとうございました。ございました。

膨大な資料のほんの一部の紹介でしたが、実に学びの多い施設でした。皆さんもぜひ足を運んでみてください。 (竹)